

1992-93年度国際ロータリーのテーマ



まことの幸福は人助けから



Real Happiness is Helping Others

- 国際ロータリー会長 クリフ・ダクターマン ●第2560地区ガバナー 栗山 清
- 会長——内山辰策 ●副会長——上木六治
- 幹事——榎本 勝 ●副幹事——五十嵐総一
- SAA——渋谷正一 ●副SAA——松谷晃吉 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477
FAX 32-7095

出席者会員数 会員 75名中 57名

先々週出席率 87.32% (前年同期 94.44%)

今日のお花 カーネーション

ヴィジター 三条北より 山本 充さん、長谷川博一さん
東京小石川より 白倉昌夫さん

ゲスト 三条市警察署防犯少年課 高森美紀子殿

先週のメイクアップ

7/16 加茂へ 池田千秋さん

7/16 燕へ 渡辺喜彦さん

7/20 三条南へ 堀川政雄さん、鈴木宗資さん、渋谷正一さん、岩井数央さん、
外山一郎さん

7/21 三条北へ 藤田紘一さん、加藤紋次郎さん、渡辺宏策さん、小林敬典さん

会長挨拶 内山(辰)会長

ご挨拶を申し上げます。今日は三条警察署の防犯少年課の高森さんから卓話をお受け頂きありがとうございます。

この前の日曜日五十嵐川クリーン作戦に私は休ませて頂きまして失礼致しました。

私は元来5月から9月迄持病があり、腰の具合が悪くなっています。9月から4月まで冷えが有り、マッサージ治療を試みても一向に治らないのですが、私の腰はお酒が一番よくきいて、1合か2合飲みますと腰が楽になります。以来30数年晩酌を欠かしません。

毎回、申し上げておりますがこの7月25日ガバナーより召集があり、ご先輩の意図する事を十分に聞き、お伝えしたいと思います。

幹事報告 榎本幹事

直前橋本ガバナー事務所より

事務所閉鎖の案内が届いております。

尚、残務処理の為、7月31日迄執務しております。

ニコニコBOX 7月22日分 ¥30,000 7月22日分

- 内山(辰)さん 三条警察署防犯課高森美紀子殿をお迎えして。尚、五十嵐川クリーン作戦に欠席致しましてすみませんでした。
- 加藤(紋)さん 久方振りに松縄先輩を拝見して…。益々の御活躍を。
- 捧さん 三條人物伝がおかげさまで刊行致しましたので。
- 平原(信)さん ひさしぶりに松縄さん、川又さんのお顔を拝見して。
- 池田さん 内山年度に入って初めての出席です。
- 内山(昭)さん 川又会員の元気な顔をお見受けして。
- 川又さん 「ぢ」の手術で例会を数回欠席させていただきました。前会長、幹事様及びメンバーの皆様の御見舞いありがとうございました。今日より元気に例会に出席いたします。
- 広岡さん 三条警察署高森婦警さんの卓話を歓迎申し上げます。
- 松縄さん 入院に際しましてはクラブより多額のお見舞いを戴きありがとうございました。渡辺・石橋前会長・幹事さんにはわざわざ遠くの病院迄来て戴き申し訳ありませんでした。又多数の皆さんに御心配をおかけして恐縮に存じました。厚く感謝申し上げます。
- 五十嵐(力)さん 先日数年ぶりに4日間(木金土日)連続ゴルフをして、自分の健康に自信を持ちました。
- 斎藤(弘)さん 松縄さんの元気な姿をみて大変うれしく思います。

- 佐藤さん 松縄さんの回復を喜び。
- 野村さん 今日のスピーカー高森さんを歓迎して。
- 榎本さん 7月19日、五十嵐川のクリーン作戦には三条クラブの皆様の多数参加をいただき、有難う御座いました。

委員会報告 環境保全委員会

去る7月19日(日)、五十嵐川クリーン作戦に多数の参加、ご協力をいただき有り難うございました。

時折、小雨の降る天候の中での作業、皆さん汗を流しながら一生懸命ガンバッテいただき本当にご苦労さまでした。又、アクトの皆さんも大変ご苦労さまでした……来年もご協力をお願い致します。

1) 三条ロータリーとしての参加者

中村和彦さん、上木六治さん、藤田紘一さん、榎本勝さん、広岡豊作さん、伊藤廣一さん、斉藤弘文さん、荻根沢隆雄さん、小越憲泰さん、杉野奎司さん、松谷昊吉さん、金沢興宗さん、

2) 他団体への参加者

池田千秋さん、加藤征男さん、木許紘一さん、鈴木宗資さん、古沢富雄さん





卓話

三条警察署防犯少年課 高森美紀子殿

こんにちは、今日は30分きっちり話をさせていただきます。

自己紹介しますと20歳と22歳の娘が2人おりまして、警察に入りまして26年たちました。その中のほとんど23年間位は少年係の仕事をしておりました。私が今迄出逢った子供達やお父さんお母さん方からいろんな事を私が子育てに役立った事がたくさんありましたのでこの中からお話をさせていただきます。

子供達の非行といいますと、あそこの子は悪い子だとか、あんなのと家の子とは遊ばせたくないとかそういう話がいっぱい聞けるんですが、私が今迄いろんな子供達と接して来て悪い子は一人もいない。これは全て生い立ちから来ているのではないかと私の結論です。

こんな子がいました。中学2年生の男の子なんですが、ある時、ビルの谷間に女性の下着がいっぱいかくしてあった。その中の一枚にマスターベーションをしたと思われるスリーブが置いてあった。

警察としては又ここに来るのではないかと張り込みをしたら、中学2年生の男の子がつかまりました。私の担当となり、父に連れられて来ました。質問に対してテキパキと返事をしました。あれ！おかしいなあ、大体こんな非行学生は内気で何もしゃべらない子が多いのになあと思いました。

調べ室に入って、「今迄どれ位した事がある？いつ頃からやっているの？」と質問しましたら、小学5年生の頃から、最初は干物のくつ下から始まっているんですね。くつ下をはいてどうするの？と聞くと、誰も人気のない所ではくんだそうです。しばらくはいて置



いて、と何回もくり返している内にだんだん女性の物を身につけたくなり、くつ下だけでは飽き足りず、洋服、ブラジャーと全て欲しくなり、片端から干物から最初は盗んだ。ところが街を歩いているきれいな女性を観て、あの様な格好をしてみたいと思い、ねらいをつけた女性の後をつけて行き、その家の留守をねらって空巣に入る様になった。空巣に入ってもお金などは一切もって来ない。ただタンスの中からこの前女性が来ていた洋服を盗って来る。

それで「どうしてこんな事をするの？」と質問すると「わからない、ただしたいだけだ」と答える。さらに女性の服を着た時と着ない時とでどちらがマスターベーションできるかと質問すると「どちらも」と答えたので、これは正常と判断した。

次に家庭内の話をしました。父、母、祖母、兄、本人と5人家族で一番好きな人は？と尋ねると、「おばあちゃん」次は？「おとうさん」次は「お兄さん」最後は「お母さん」と答えた。中学2年生の男の子であれば順序が違う様なので家庭内の話についてつっこむと、母の嫌いな理由が小さい頃の思い出にあった。

幼稚園にあがる前、近所に同じ歳のかわいい女の子がいて、その子ばかりをかわいがっていた。毎日その子を連れてきて「かわいいね、かわいいね」といってはブラシで髪をとくしたり、三ツ編みをあんであげたりして、すごくお母さんの膝の上にあがりたかったのに、その子が羨ましかった。

ここまで聞いたらお母さんの嫌いな理由がわかった。
その他にはと聞くと、僕は中学2年生だけど、母は台所仕事をするたびに「お前が女の子だったらね、女の子だとよかったのに」。その理由は、台所仕事を手伝ってもらえるからという単純なことだった。母の口からいつも「お前が女の子だったらよかったのに、女の子だったらかわいがってあげるのに」という言葉がたくさんでている。その為に子供はおそらく自分が女の子だったらお母さんが、うんとかわいがってくれたのではないだろうか、そんな気持ちから子どもはそういうことをしたのではないかなあと感じました。

その子供には、自分自身女の子の格好をしなくてもマスターベーションできるということとは正常で、性的には何ら心配の無い子だとわかりましたので、お父さんとお母さんに警察に来ていただいた。お父さんは最初から来ていただけでしたが、お母さんにも来て下さいと連絡したら、お母さんは「嫌だ、そんな恥しいことをする子供のことで警察になんて行きたくない」。何がなんでも、とにかくお父さんに引張ってきてくれとってお母さんにも来ていただきました。

その時に私の方でお父さんとお母さんを目の前にして、子供には、何一つ悪いところはない。本当に子供を治したかったら、私がこれから真剣に話しをするからいろんな質問に答えてほしいということで、まず一番最初に聞いたことは、お母さんがこの子をお腹に授かったときに一番最初に思ったこと、授かったことがわかった時に思ったことを教えてほ

しいと聞いたら、そうしましたら横からお父さんが「高森さん、そのこと関係あるんですよ。そのことなんですよ」とすぐおりたたむようにお父さんがいわれた。私は「だと思っただけです」。お母さんは最初にこの子が授かった時に何ていったかお父さんに聞いたら、「うちの家内は今でもいうんです。子供が授かった時はなおさら、そして生まれるまでいってました。お父さん次は女の子がほしい。上はお兄ちゃんの為、次は女の子がほしい。生まれた途端に男の子だとわかったら「あっちゃあー」といったんです。そうですよ、この子は生まれる前から母親の希望する子ではなかったんですよ。そんな中で生まれてきて、子供のかわいがってほしいという気持ちが親に伝わらないですよ」とすぐに私に言って下さったのです。

私はそれが本当の理由かどうかはわかりません。但し、もしかするとこれは私は直きに治ることではないかと思えます。小学校5年生から中学2年の間ですから、かなり年数がかかっています。それと空巢の手口もだんだん利口になって、随分学習を重ねてあって癖になっているかどうかの境界線だと思っていました。お母さんには治す方法が一つだけある。

どうやって治すかといったら、お母さんにおばあちゃんの真似をしてほしい。おばあちゃんのことをなぜその子が好きかという、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが2階に寝ていて、おばあちゃんが一人で下に寝ているとその子が必ずおばあちゃんと一緒に寝る。何の為に、おばあちゃんと一緒に寝るかという、玄関の鍵をしめる。ガスの元栓をしめる。おばあちゃんの布団の上げ降ろしをその子がみんなしている。おばあちゃんには一生懸命力仕事をしてあげて感謝される。おばあちゃんが「お前はいい男だ、いい男だ」とたくさんほめてくれるから、その子はおばあちゃんのことを大好きだった。お母さんは、おばあちゃんとは嫁と姑ですからうまくいっていない部分もあったのですが、おばあちゃんと同じことをしてほしい、おばあちゃんをお手本にしてほしい、この子と接する時、とにかくおばあちゃんがやることと同じことをしてほしいということをお母さんに話しをした。

そうしましたら、お母さんが「そんなことで治るのか？本当にそのことが原因なのか」とおりたたんで聞いてきたので「それはわかりません。もし私がいう通りに生活して3ヶ月間、何も空巢がなかったらそれしかないと思う。とにかく騙されたと思ってやってほしい。6ヶ月たってもまだ空巢がでるのだったら、これは病院の方へ紹介するから行ってほしい。病院へ行かせたくなかったらお母さんがんばってやってね」とお願いしまして、結果的には以後一切問題はおきませんでした。「ああ、なるほどな。やはり生い立ちに由来しているな」そんなことを感じました。

子供達の非行で一番多いのは万引です。以前にこんな万引の子供がいました。中学一年の男の子でした。最初とってきたのは文房具、シャープペン、ノート、消しゴム、ものさし等をとってきた。たいしたことはないだろうと注意だけで終わって帰った。3ヶ月しな

うちにまた捕まってきた。その時には、やはり文房具ばかりで、この間捕まったばかりなのに又するんだからどうしたんだろうということで、今度は時間をかけて子供と話しをすることにした。

「今迄どれくらいあるか？」と聞いたら「今迄いっぱいある」「その品物どうした？」「全部家の押入にとってある」「どうしてとったの？」「ほしかった」。ノートは何百冊、ものさしは箱ごと、消しゴムもそう、ノートも束にそのままをとってきている。

「使った？」「一つも使っていない」「なぜ使わないの？」「だって警察にみつかった時出さなきゃいけないから、とっておいた」「欲しくてとったのに、どうして使わなかったの？」「使っていない」「ねえ、どうして万引したと思う？」「わからない」。何故この子は万引をこんなに続けるのだろう。欲しくもない品物をどうしてこんなにいっぱい押入の中にとっておくのだろう。

困ってしましまして、やはりまた家庭の話に私はもっていった時に、家の中で一番嫌なのが「お父さん」。「あんな親父なんか帰ってこない方がいい。死んだ方がいい。どうせだったら金になるので車にひかれて死んだ方がいい」こういうことを言う。「え〜え！そうか、お前本当にお父さん嫌いか？」「うん。」「違うだろう。お前は本当はお父さんのこといっぱい好きなのに、お父さんはお前のことこんだけしか好きじゃないとわかるから嫌なんだろう？本当は好きなんだよね。好きだという気持ち、お父さん知っててくれないものね。そのことで嫌だよ」言いましたら、とっても素直な子です。「本当はそうだ。本当はお父さんのこと好きなんだけど、お父さんはちっとも僕のこと好きじゃない」こういうふうに話しをした。

そんなことを言っているうちに「おばさんは子供何人いる？」と聞かれた。「おばさんは2人だ」「じゃ、俺の家と同じだね。俺とお兄ちゃんだし、おばさんちは女だけど2人だもんね。おばさん、質問していいか？」「いいよ」「みかんが3個あります。おばさん、この3個を2人の子供に分けて下さい。」「1個ずつくれるよ。1個余るから、この1個をおばさんが食べるよ。」「違う。2人の子供に分けてくれ。」「じゃ、残った1個は半分ずつにして2人にやるよ。」「おばさんだったらきっとそうするよな。」

こう言いましたのでこれは何か言いたいことがあるな、と思ひまして、「ねえ、どうしたの？僕の家は違うんだ？」と聞きましたら「違う。」「誰が？」「お父さんが違う。」「どういうふうに違うの？お父さんどうするの？」「お父さんは、兄ちゃんは2個、お前は1個」「そうなの。だってお兄ちゃんは大きいんだろう？」「違うよ。兄ちゃん俺と2歳違うだけだもん。」中学1年と3年だと言った。

「そっかー！困っちゃったなー！」「おばさん、もう1つ質問！子供がテレビのチャンネル争いをしていた時におばさんがたまたま家に帰ってきたとすると、おばさんはどうする？」と聞かれた。「おばさんの家にはテレビは見るチャンネルが決まっているから、そ

ういうことないね。僕の家はどういう？」「俺の家は、お父さんが『お前ら、何しているんだ』テレビのチャンネル争いをしているとわかると、ガチャガチャとお兄ちゃんが見たい番組のところへやっちゃうんだ。『お兄ちゃんは、もうすぐ受験が始まるから、勉強しなければならぬから今は兄ちゃんがテレビでみる時間だ』全部兄ちゃんのところへいく」「う～ん、そう。随分お父さんはお兄ちゃんのことばかりかわいがるんだね」「いつもそうなんだ。俺のことなんて知らない子なんだ。」「そんなことないと思う。今お兄ちゃんは大事な時期だから、お父さん必死なんだと思うよ。」「違う。小学校の時からそうだった。」

こういう不満をたくさん私に並べたてまして「まあいいわ。ところで万引している時はただ欲しかったと言うけど何なの？万引している時何か考えていることない？いつも頭の中に浮かぶことないかしらね。しっかり思い出して」。しばらく考えていました。「お婆さん、俺1つだけあった。俺、万引している時いつも頭に浮かんでいることあった。」「何だった？どんなこと思い出した？」「俺ね、鞆の中に品物を入れるたびに父ちゃんのパカ！父ちゃんのパカ！俺は心の中でいつも父ちゃんパカとって盗んでいた。」「よしよし、もういいわわかったわ。お婆さんはこれ以上お前と話しはしないよ。お前のお父さんといっぱい話しをしなければならぬ。お父さんと話し合いしてもいいか？」するとその子が「ぜひお願いしたい。」「お婆さんが何話ししているかわかる？」「わかる。」「じゃ、お婆さん何話しするの？」「お婆さんは、俺が父ちゃんのことたくさん好きで、父ちゃんからも本当は好かれないと思っていることを言ってくれるんだろう？」「それ以外に何も言うことないよ。それしかないよ」「わかった。とにかく話しをしてほしい」。

そのことで、お父さんとは何回も話を重ねました。お父さんはようやくわかってくれました。お父さんが変わった途端、子供は大変に前向きになりました。

今迄呼んだ子供たちと出会って、子供をなおそうと思って何かやっても一切直らないです。やはり親の考え方のどこかをつっつかないと決して子どもにはいい影響を与えないというのが私の今迄の経験談です。

私自身の中でのわかり方なんです、以前こんな子がいました。やはり万引なんです、中学生の子供たちがグループで万引をした8人位のグループですが、1名だけが大変成績の優秀な子で、あとは全部下が数えた方がいい子供たちでした。「おもしろいグループだな。何故こんなグループができるのだろう？」

その8人をよぶことになりまして、それまでの間に盗んだ品物がいっぱい出てきました。学生服、遊び道具等小さなデパートが開けるくらいに種類が豊富でした。その8人を並べて話しを聞いている時に、それぞれの机の上に盗んだ品物を並べておいて、これから盗んだお店ごとに品物を並べ換えていくからということは何月何日にどこのお店で盗んだものはこのテーブル、というふうに子供たちに整理をさせて指示を出しました。

「はい、じゃ開始。みんなで相談し合って順番に並べよ。」と号令をかけてやったん

です。そうしますと1人を抜かして全員がスムーズに動くんです。最後まで動けないで何も整理できなかったのが、成績の優秀な子だったのです。私がお兄ちゃんに「お前、本当に学校の勉強ができる？」と聞きましたら「はい。」回りの子供たちも「そいつなんかすげー優秀なんだよ。」

今度は1対1になって話しをする時に、全くその子は何か聞いても言葉で返事することができない。「うん。うん。」ただこれだけでもってすべて終わりなんです。「お前どうしてこんなふうになってきたの？」

お父さんは学校の先生、お母さんは学校の先生を途中でやめた方、おじいちゃんは学校の校長先生あがり、お婆あちゃんは学校の先生で、教育者の家庭です。子供が4人の一番上で、「何でこんな育ち方したの？お前には言葉がないね。」

今度お母さんと話し合いした時に「家でも毎日こうですか？」「家でもこうです」「どうしてこんな育ち方したの？小さい頃の話から聞かせて」。

「この子は、とっておじいちゃんにかわいがられました。おじいちゃんは毎日膝の上において、そろそろテレビの時間だなどといってスイッチが入り、おやつ時間だといって、ハイ手を洗ってきてお茶にしよう、とおじいちゃんが毎日つきっきりでその子の面倒をみてきました」「なるほどな。お母さん、これじゃ言葉はいらぬね。手のかけすぎだったね。どうするの？自分で生きて、自分で考えて、自分で行動できなげいけぬのに、この子はそれができないよ。でも今回たった一つだけ誉めてあげられることは、自分でやろうと思って万引をしたことは誉めてあげられる。やったことは間違っているかもしれないが、自分で決めてやるという行動力はあるから、これをこのままにしておくのはもったいない。どうかしてきちんとしたことをできるようにしよう。お母さん、ごはんいっぱい食べる？この子、おかわりする？」「します」「元気よくおかわりと言う？」「おかわりって言わないのにどうしておかわりできるの？」「やだ、高森さん。だって私が見てますでしょう」「えー、どうするの？」お茶碗が空っぽになりますとおかわりだねと言ってもってやるそうです。「はーあ、すごいね。お母さん暇だねー。4人の子供にそんなことしてるの？そんなことしてたらダメだよ。食べることは、生きることの第一歩だ。自分の言葉で人に伝達できないことは、間違っている。明日から手始めとして、ごはんはおかわりというまで絶対にもらぬこと。最初に一杯目のごはんは七分目か八分目でやめておくこと。お母さん、これ守ってね」「やだ、高森さん。そんなことしたら家の子飢え死にする」。

とにかく実行していただいて1ヶ月経ちました。お母さんから連絡がない為、こちらから連絡したら、「高森さん、まだおかわり言わぬんです。」「子供やせたかね？」「やせていない」「お母さん、一杯目のごはん山盛りでしょ？」「山盛りだ」「それじゃ、おかわりは言わぬ。我慢して七分目から始めてほしい」。

今度半年経ちました。電話がきました。「高森さん、やった！やった！」「どうした？お

「かわりって言った?」「言わない。」「言わないのにどうしたの?何があったの?」「あの子が言ったんですよ。お母さん俺の飯、今度から丼に盛ってくれ」「よかったねー。言えるじゃない。一つ一つやろうね。今度学校の手紙を子供の鞆の中から無理して探さないでね。」

ということで、子供は育ってきた環境、養育した親の価値観によって随分と子供たちの生き方もかわってきてしまう。これは、やはり大人の責任です。私たちのところへくる子供たちは、年間何百人もいます。何百人もいますが、どの子をとってみてもこの子は性格的におかしいとか、そういう子供たちの非行は一切ありません。みんな家庭の影をひきずって子供たちの価値観がどこかでもって歯車がくい違ってしまった。それから親の目盛りのつけ方の間違いからきている子供たちの価値観の狂いが、何か非行を生んでいるような気がしています。

あと1分前ですが、30分ちょうどにやめると警察の高森さんはいい人だといわれると思いますのでこれにて私の話しはおしまいにします。

7月29日例会 クラブアッセンブリー

8月5日例会 卓話「最近の郵便事情」三条郵便局長 平原巖一殿

8月12日例会 休 会
